

# YMCA NEWS



神戸青年 No.596  
2009.7・8 July・Aug

発行所 日本YMCA同盟 東京都新宿区本塩町7  
THE YMCA神戸版 発行人/水野 雄二 編集人/坂本 庸秀  
神戸YMCA 〒650-0001 神戸市中央区加納町2-7-15  
TEL .078-241-7201 FAX .078-241-7479  
URL http://www.kobeymca.or.jp 印刷/わかばやし印刷

神戸YMCA 年間聖句 わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛しなさい。(ヨハネによる福音書 13:34)

## 神戸キリスト教青年会 総会 開催



5月29日 神戸キリスト教青年会定期総会が128名の参加をもって開催されました。計画と準備を総会実行委員会が担当し、当日の資料準備・受付は今回も神戸ワイズメットの皆さんが担って下さいました。今回は新たに、学校法人・社会福祉法人の常務理事から事業報告があり、各委員会委員長と育成クラブ幹事からのアピールも加わりました。今年度新設された125周年実行委員会とNEXT VISION委員会からも目標とスケジュール概要が報告され



ました。新しい名誉会員として、余島やヨットクラブをご指導いただいた鎌方志郎さん、ワイズメン・聖公会司祭としてご指導いただいた山根貞夫さんが顕彰されると出席者から賞賛の拍手が響きました。食堂へ会場を移した第2部では、ボランティア奨励賞の贈呈、サンドウィッチをつまみながらの懇談と、和やかな交わりのひと時ももたれました。実行委員会を中心に、会員とボランティアが支える神戸YMCAらしい総会にしようと取り組んできていますが、また1歩その姿に近づいたように感じました。

### ボランティアリーダー 委嘱式が行われました

6月4日 2009

年度、新たな1年を向かえるにあたり、神戸YMCAよりボランティアリーダーに委嘱をする式が持たれました。

神戸YMCAを代表して水野総主事より委嘱状が各リーダー会長に手渡され、総主事から、リーダーの日々の奉仕に感謝するとともに、「他人のために祈る」ことの大切さ、そして子どもたちに多大な影響を与えるリーダーの偉大さ、またその責任の重さをメッセージとして、今年度の活動を委嘱しました。

決意する場となりました。YMCAは人が出会い育つていく場所であり続けています。123年の間受け継がれてきた魂を感じ、また新たな使命への出発を心に結びひと時となりました。

本年度もたくさんの方々に支えられて活動をスタートしております。特にリーダー育成にご支援をいただいたワイズメンスクラブの皆様にご心より感謝申し上げます。

ボランティアリーダーと共に歩み、「若者と子どもとのいのちが光り輝くように」これからも活動を続けてゆきたいと思っております。



会社が破綻すれば、経営者は全てを失い、債権者から責められるものだと思っていたが、破綻した企業があまりに巨大だと、政府は放置できず巨額の援助をする。経営者は援助を受けるために多くの労働者をレイオフしながら、自家用ジェットで移動し巨額の報酬を受け取つたままだ。自らの使命は「株主の利益」だと彼らは言う。巨額のボーナスまで筆取り取り、株主は後のことは知らぬ顔で資金を引き上げるが、現在の経済活動では「正しい」ことらしい。こちらは東京YMCAの土谷氏から伺った話。25年前、氏がサイパン島に1ヶ月間派遣され、現地小学生のデイキャンプを担当した。島の水道は雨水に頼っているためチョロチョロとしか出ず、時折断水もする。プログラム中「休憩！」の声に、こどもたちはみんな、1つしかない水道へ走る。でも早い者勝ちに水を飲むのではなく、体の大きな年高の子がみんなを背の順に並ばせ、体の小さな年下の子から蛇口の所へ行かせる。順番が来た子は一口飲むと次の人に譲り、自分は列の一番後ろにまた並び、ムハマド・ユヌス氏が言うように、経済活動で利益を求めても、自らの「真の目的」を見失わなければ、その利益は求められる所へ還元できる。お互いが凌ぎを削るのではなく協働する事も可能になる。私たちも経済活動の中に組み込まれていくが、本当の目的を見失わずに行きたい。

特別講演

講師：佐藤 真海氏 5/26(火) 19:00

夢を跳ぶ

パラリンピック・アスリートの挑戦

神戸YMCAは2007年より、サントリー(株)の協力を得て「余島プロジェクト」を推進しています。今回はボランティアアスリートに向けて、サントリー(株)の社員であり、アスリートでもある佐藤真海さんの講演が実現しました。佐藤さんは早稲田大学入学とともに入部した応援部チアリーダーズで活躍していた2001年冬、骨肉腫を発症、2002年4月に右足膝下を切断し義足の生活を余儀なくされました。治療とリハビリを経て障害者スポーツに出会い、2003年1月からスポーツを再開し、走り幅跳びでアテネパラリンピック出場(9位)、2006年ワールドカップでは銅メダルを獲得するなど、実績を積みながら北京パラリンピックへの切符を掴み連続出場を果たしました(6位)。

当日はリーダー87名、職員20名、総勢100名を超える参加者が集まりました。リーダーにとって「癌(骨肉腫)」「いのち」「死」という言葉は普段行き交っていても、中々実感のもてないものです。今回講演の中で、自分達と同年代の時に「生きること」を真剣に考え、「絶望」「希望」「勇氣」に本気で立ち向かった佐藤さんが、その気持ちをストリートに話して下さったことで、リーダーは素直に受け止



め、驚きや、尊敬、感動等様々な想いを巡らせていました。より「生きること」についての深く考える機会になったのではないでしょうか。

佐藤さんは「挑戦し続けることが自分を輝かす」と仰っていました。リーダーがこれからの活動の中で、また自身自身のことと壁に当たった時に、今回のお話は勇気を与えてくれるのではないかと思います。あるリーダーが感想をメールで送ってくれました。「今日のあの講演は本当に心にきました。感想言おうかなとも思ったんですけど、何かいろんな思いがありすぎてまとまらなかったんです!! これは本当に!! あたし、頑張ります!!」言葉にはなっていない彼女の想いを聞いて、真海さんのメッセージが心に届いたんだなと嬉しく思いました。

ヘルシーキッズ・ファミリーデー

神戸YMCAでは年間を通して、いくつかのファミリープログラムを展開しています。様々なアクティビティの中で、また多様な自然の中で、家族同士が触れ合い、互いに認め合いながらその絆を深めていきます。



作りしました。ゆったりとした自然の中で、食後は川遊びをしたり、のんびり陽にあたりながら。下山前にはお父さんチームによるスペシャルデザート(焼いたマッシュマロをチョコとクラッカーで挟みます)を食べて、元氣いっぱい下山しました。

YMCAではヘルシーキッズを通して「食事・運動・生活」の3つをもう一度見直し、健全な心身の営みに目を向けるプログラムを展開しています。今回は子ども達も、大昔子ども達も、程よく運動し、程よく食べ、程よくのんびりした1日でした。次回は秋口に開催する予定です! また皆さまの参加をお待ちしております!!

神戸YMCAでは年間を通して、いくつかのファミリープログラムを展開しています。様々なアクティビティの中で、また多様な自然の中で、家族同士が触れ合い、互いに認め合いながらその絆を深めていきます。

今回三宮YMCAでは「健康」に焦点を当てて、家族で触れ合うときを持ちました。6/7(日)初夏の晴天のもと、ヘルシーキッズ&ファミリーデーに合計20家族、総勢69名が集まりました。今回は市ヶ原でカレー作り。新神戸駅を出発し、食材に関する5つの問題を解きながら登山を楽しみました。市ヶ原に着くと、グループごとにカレー作り。火おこしから飯盒炊きさんまで、各グループ思い思いに

「食事・運動・生活」の3つをもう一度見直し、健全な心身の営みに目を向けるプログラムを展開しています。今回は子ども達も、大昔子ども達も、程よく運動し、程よく食べ、程よくのんびりした1日でした。次回は秋口に開催する予定です! また皆さまの参加をお待ちしております!!

賀川豊彦献身100年記念コラム② イエスとの出会い

賀川は、1888年神戸に生を受けました。5歳の時に父と母を相次いで失い、姉と共に徳島の本家に引き取られます。ここでは愛情を注がれず、苦しいときが続き、16歳の時、徳島教会で宣教を行っていたH.W.マヤス氏と出会い、洗礼を受けるに至ります。

その後マヤス氏に勧められ、愛知県豊橋の宣教師、長尾巻氏に出会いますが、この出会いが賀川の人生に大きな影響を与えます。長尾氏は自らも貧しい暮らしをしなから、なお、貧しい人々を教会に受け入れ、社会的に弱くされた人々に愛を注ぎ、福音を伝えていました。その



※前から三列目 中央(眼鏡)が若き日の賀川豊彦

国内初の感染確認が神戸の高校生

5月16日(土)、神戸市内の高校生3名に新型コロナウイルス感染が確認されました。神戸YMCAでは同日午前中に緊急会議を開いて対応策を検討、財団・学校・社会福祉の3法人それぞれ最初の対応を実施しました。通知は当初、神戸市(中央区、灘区、東灘区)及び芦屋市に対する休業措置でしたが、やがて兵庫区、長田区、北区へと拡大、更に兵庫区・神戸市第3学区にも発表されるなど、刻々と範囲が広がりました。

神戸YMCAでは行政の指示・要請に順次対応し、幼少年・学校・保育園などは休講・休園、青年成人活動は注意喚起しつつ会員個人の判断に委ねて実施しました。22日から県・市などが順次休業措置緩和決定を発表、神戸YMCAでは23日からプログラム・園を順次再開、結果的に概ね1週間「休業(一部除く)」となりました。再開後も体調管理への注意喚起、手洗いとアルコール消毒など感染予防策を継続しました。休業措置緩和決定後も、街中でのマスク着用率はおよそ90%を超え、デパートなどの従業員がマスク着用で接客するなど「緊急事態」のムードはなかなか払拭されず、25日のWeb受付から始まった夏のプログラム募集は出足を控かれてしまいました。また休校分の振替で夏休みが短縮され終業式がキャンセル日程に食い込んだり、神戸YMCAも休講分の振替補講を設定するなどの影響も出ました。

感謝

第20回チャリティゴルフ大会

4月21日(火) 千刈カンツリー倶楽部  
参加者64名  
収益 296,497円

- 足立康幸、飯田義雄、猪飼惇二、石岡 健、市原法雄、今小路憲人、岩田良男、上野恭男、大久保忠彦、大久保淑子、大島 工、大田靖之、大西桂子、小川勝之、奥山泰仁、尾崎 伸、尾上尚司、加藤光信、木田誉昭、北浪邦夫、北浪隆子、功力正士、黒崎敬三、河野長生、澤山八郎、芝原正己、杉村 肇、武田 建、多胡葉子、田島隆男、谷 紳一、谷岡弘崇、民谷 清、堂本将司、遠近芳紀、富川和彦、中尾英輔、西田 勉、橋本正晴、濱 浩一、濱 美智子、濱瀬真知子、広瀬一雄、福原吉孝、藤井記久子、堀 岩夫、松崎良治、松本文男、万本敬一、水野雄二、水間麻紀、満田和枝、三宅 敬、宮本時博、安行英文、山口政紀、山路正明、山本克己、山本常雄、山本 毅、吉田 量、吉野泰史、米田喜美、米田准三、(株)サンピルター、阪根 新、米谷 収、上月秀夫、腰塚政人、中島貴美子、清水幹弘、喜多 敬、播磨 亘、武田寿子、吉原尚美、芝川英美子、竹増 操、下田恵美子、菱三印刷(株)、高島武郎、丸山悦治
- (敬称略・順不同)
- 【寄付金】  
近江岸多美、岡山泰典、清水泰人、武田寿子、富川和彦、濱 浩一、兼田幸子  
(敬称略・順不同)



# 2008年度Y M C A国際協力募金へのご協力ありがとうございました

【収入】 (単位: 円)

通常募金	3,541,840
緊急募金	2,325,277
計	5,867,117

【支出】 (単位: 円)

日本Y M C A同盟拠出金	450,000
タイワークキャンプ及びボランティア・チェンマイ派遣	1,524,813
定住外国人子ども奨学金	180,000
神戸Y M C A日本語学校就学生奨学金	240,000
国際活動リーダーシップ養成	397,100
エイズ孤児支援・エイズ教育支援	339,600
ガザ支援・オリーブの木・パレスチナ難民支援	220,000
中国四川省大地震災害支援	960,000
ミャンマー・サイクロ災害支援	500,000
その他災害支援	200,000
開発・国際理解教育	363,095
事務局経費	492,509
計	5,867,117

## ソナタ 奏鳴曲 No.38



総主事 水野雄二

### 逃げない、逃げ出さない!

5月16日の早朝、神戸に新型インフルエンザ発症の衝撃が走りました。日本初の国内感染で、神戸市内の高校生が罹患(りかん)していました。その時から神戸では、神戸Y M C Aに限らず、学校・施設・企業・家庭でも対応に追われることとなりました。街ではほとんどの人がマスクをして歩き、テレビでは次々に感染者増加の様相を伝えていました。ああ、震災の時と同じや! あの時は粉塵を避けるために皆がマスクをして歩き、テレビでは刻々と増加する被災者の数を報道していました。「パンデミック」世界的規模で感染症が流行し、連鎖的に広がる様子をそう呼びます。恐れていた新型インフルエンザは幸いにも結果として弱毒性でしたが、神戸はまたもや「災いの街」の烙印を押されてしまいました。心ない地方の首長は、神戸に行った中学生を登校停止にしたという悲しい反応もありました。

私たちは海外の災害や紛争に苦しむ人々を見ると、難民のようにそこから逃げ出せばよいのに、と無責任にもそう思います。しかし、彼らはその土地を愛し、生活し、そこから逃げ出さないのです。私たちもまた、「何故、神戸で...」とは思いますが、どんなに感染者が増えたとしても、神戸から逃げないし、逃げ出そうとはしません。ここで生きているからです。

神戸の震災の時に作家・司馬遼太郎が神戸の人々を慰める文章を寄せていたのを思い出しました。神戸の人は悲惨な状況でも平常の表情を失わず、助け合って、自立した市民であった。行政を罵(ののし)らず、扇動もせず、市民が自分の暮らしを回復しようとしていることに敬意を表し、そして司馬さんはこのように締めくくっています。

「神戸。あの美しく、歩いているだけで気分よくなった神戸が、こんどはいつそう美しく回復する上で、この精神は基本財産として役立つに相違ない。神戸。と、私はつづやきつづけている。やさしい心根の上に立った美しい神戸が、世界にただ一つの神戸が、きっとこの灰塵の中からうまれてくる。」

## 記念会が行なわれました

昨年逝去された宮田一雄氏、近江岸建助氏の記念会(宮田一雄氏記念会 5月19日、近江岸建助氏記念会 5月31日)が、神戸Y M C Aで行なわれました。

リーダーOB OG、ワイズメンズクラブ、現・元職員など、たくさんの方々が集まり故人を偲びました。

集った方々は思い出を語り、また語られる思い出をお聞きする中で、改めて、故人がそれぞれの心に生き続けておられる事を感じる一時を持つことができました。



5 / 19 宮田氏記念会



5 / 31 近江岸氏記念会



スタッフ研修「体力測定」

スタッフが研修「体力測定」を行いました。神戸を離れておりましたが、非常に刺激を受けました。神戸を離れておりましたが、非常に刺激を受けました。神戸を離れておりましたが、非常に刺激を受けました。

2009年3月の約1か月、神戸Y M C A派遣ボランティアスタッフとしてタイのチェンマイY M C Aに派遣されていた竹内尚美さんからの活動報告です。

主な内容は、チェンマイY M C A(チェンマイY M C Aのボランティア)で地域に向けての介護予防プログラムのプレゼンテーション、介護予防プログラムの指導者養成、第26回タイワークキャンプのサポートの3つです。行政関係者や近隣の老人施設、村の老人会の代表などに神戸Y M C Aで行っている介護予防、高齢者プログラムの紹介と行政の受託事業、ウエルネスセンターの状況報告などを2日間に亘って行いました。チェンマイも高齢化が進んでいるため参加者も興味深く話を聞いてくださり、今後のY M C Aの高齢者対象の事業への期待も実感することができました。事前準備として日本語の通訳を交えてスタッフとミーティングをし、英語、タイ語のパワーポイントの資料を作成し当日に臨みました。4名のスタッフに対して3日間、介護予防プログラムの指導者養成を行いました。ストレッチ、リズム体操、脳刺激、筋刺激トレーニング、プールでのウォーキングやトレーニングや体力測定方法などを一生懸命練習しました。Y M C Aのスタッフらしく丁寧で楽しい指導者4名が誕生。今後の地域での活躍にご期待ください!

は昨年引率させていただいた時に感じたたくさんの想いに対して少しでも恩返しできるように。そして今年も参加者にもいろいろな素晴らしいことに気づき、感じてもらうように!とお手伝いさせていただきます。今回、介護予防プログラムの指導者になった中の一人に私と同じくY M C Aを退職後にボランティアとして関わっています。非常に刺激を受けました。神戸を離れておりましたが、非常に刺激を受けました。神戸を離れておりましたが、非常に刺激を受けました。



チェンマイ地域の行政関係者・高齢者と一緒に

シリーズ「くさのまど」

ウエルネスセンター三宮	×078(241)720
YMCAホームヘルパーの事務所	×078(241)723
ランゲージセンター	×078(241)7204
専門学校	×078(241)720
西宮YMCA	×0798(35)598
三田センター	×079(559)007
余島野外活動センター	×0879(62)224
ウエルネスセンター学園都市	×078(793)740

**KOBE**  
**YMCA**  
**GOAL 2011**

# Information

西神戸YMCA	×078(793)740
西神南センター	×078(993)156
須磨YMCA	×078(734)018
YMCA保育園	×078(794)390
西神戸YMCA保育園	×078(792)101
西宮YMCA保育園	×0798(35)599
YMCAちとせ幼稚園	×078(732)354
西神戸YMCA幼稚園	×078(997)770

## PHOTO TOPICS

### 5 / 14 第1回 女性スタッフ対象研修



武田理事長も講師のお一人として



全国から集まった精鋭女性スタッフ

### 5 / 3 6 野外・余島リーダートレーニング



### 2009年度総会 ボランティア奨励賞

1. 三田センター 達家彰子さん  
三田YMCAの花壇を季節に合わせて、花や土を自ら持ち込んでアレンジしてくださっています。市役所前に位置し、人通りの多い道に咲く美しい花々は、通り過ぎる人々の心を穏やかにしてくれています。
2. 西神戸Y 阿部 巧くん(高3) 山木麗奈さん(高3)  
高校生ならではの視点で、身近な良きお兄さん、お姉さんの存在として学童保育の子どもたちに関わり、よい影響を与えてくれました。阿部くんは日常の学童保育に加え、夏の学童余島キャンプでも活躍してくれました。山木さんは日常の学童保育に積極的にに関わり、この1年で大きく成長しました。4月からは西宮ランチでユースリーダーとして活動してくれます。
3. ウエルネスセンター三宮 石原久子さん  
野外活動のボランティアリーダーに加え、アクアティックプログラムのリーダーとしても活動していただきました。中日本YMCA水泳大会へも役員として参画し、子ども達をしっかりとケアし、他のリーダーにもとても良い刺激と影響を与えていただきました。
4. 余島 竹林直樹さん、竹林裕子さんご夫妻  
時間がある度にご夫婦一緒に、時にはお一人でお客様として余島を訪れてくださいます。毎回、枯れ松の伐採や浜掃除、草刈などのワークを通じて一生懸命に働いて汗を流し、余島を心から愛してくださる姿が印象的です。
5. 西宮Y 伊藤ゆりさん、富田早紀さん、山城みなみさん  
西宮YMCAのメンバーOGであり、ボランティアリーダーとしてユースバスケットボールのメンバーを支え、活動しています。クラスでの指導だけでなく、中日本YMCA YBB大会でも運営ボランティアとして参画し、大きな大会を成功させました。楽しみながら活動している姿が印象的で、何よりも子ども達にとって良いモデルとなっております。
6. 本部事務局 大塚正子さん  
職員礼拝では奏楽奉仕をしてくださり、美しいオルガンの調べにいつも心癒されています。また、毎週のように1階ウエルネスフロントに生花を生けてくださり、来館者の心を和ませてくださっています。

### 5 / 2 宝塚バザー



### 6 / 21 チャリティスイムフェスティバル09



#### 個人消息

ご結婚 おめでとうございます  
小坂哲子さん(三宮ランチ)  
郷間 環さん(余島センターリーダーOB会)